

たんぽぽだより



共に生きるということ

施設長 浅見 僚子

「共生社会」という言葉に対して、パラリンピックの車いすテニス金メダリストの国枝慎吾選手が、興味深い発言をしていました。「僕は、パラリンピックはスポーツとしての魅力にこだわりたい。共生社会とか、多様性とかそんな言葉がいらなくなるのが一番の理想。世界がもっとシンプルに、競技そのものを楽しめるようなパラリンピックになってほしい。」

障害を乗り越える不屈の精神や努力とか、厳しい練習は大前提であって、それは健常者も同じです。国枝慎吾選手は、純粋に『車いすテニス』のスポーツ競技としてのおもしろさや魅力で人々を熱狂させることを目指してきたというのです。

見ている人々が「障害があってもこんなにできるんだ」という所に感動させられ、それもすごいことなのですが、国枝選手は、さらに上を目指されている生き様が、私達に感動以上のものを下さっている感じがします。

先日、障害者の方々の生の声を聞く機会がありました。その中で、歩行困難なため生涯を車いすで生活している方のお話が印象的でした。自身で、ヘルパー事業所を立ち上げ、現在は介護事業も経営されている方です。

テーマは「僕と遊びにいきませんか？いや、やっぱりなかったことにしてください。」休みの日に、友達と出かける時、トイレ介助が必要なので、前日から水分や食事をできるだけ控えている。ヘルパーさんにも、回数が増えないよう気を使ってしまうので、ましてや友達に頼むとなると大きな借りが出来る感覚になってしまう。そこで、本来、友達との外出は折半が普通だと思うけれど、行きたいのは俺だから、俺が二人分全額を出すということにしている。いざ、出かける時は、ト

イレやエレベーターなどの設備も下調べが必要で、当日の行動にも車いすのため、制限がある場合が多い。となると、やっぱりご迷惑でしょうから、この話はなかったことにしてください。となってしまう。自分が今、一番したいことは気兼ねなく一緒に外出できる仲間がほしいんです。

自力で、事業所を立ち上げ経営までできる人でも、友達と出かけた、という願いを実現することに対してこんなに大きな精神的・物理的な壁があることを知りました。

知的障害や発達障害の場合、人それぞれに特性やこだわりがあります。事業所内では、支援者が特性を理解し、適切な支援を行えるよう学び実践しています。合わせて環境整備も進めていきます。特性やこだわりによる行動が、一般社会のルールに反してしまう場合もあります。周りの人々に迷惑になる行動であっても、強制的に止めることはなく支援の工夫や環境調整などで対応しています。障害者も積極的に社会に出よう、と言われるけれど、一般の方々が知的障害や発達障害について十分な理解があるとは、まだ言えない段階だと思います。

ある小学校の校長先生がおっしゃった言葉がずっと心にひっかかっています。「子ども達には、身体の障害はわかりやすいんだよ。知的障害については理解が難しいんだ。」

健常者が障害について考える時、違う世界のことと思いがちです。しかし、障害は、事故・病気・高齢化など、いつでも誰にでも起こりうることです。障害者が住みやすい社会は、全ての人々が住みやすい社会です。

私達は、知ってもらおう努力を続けていかねばなりません。「ふれ合う場を多く作る」「積極的に情報発信をする」コロナの中ですが、国枝選手のように理想を高くもって、障害者理解のために、できることをみつけて、利用者様と共に取り組んでいきたいと思えます。



12月の活動予定



日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18 開所日
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28 13:00 帰り 昼食あり	29 冬季休暇	30 冬季休暇	31 冬季休暇	



ベルマーク・使用済み切手寄付のお願い



たんぽぽでは、ベルマークと使用済み切手の回収を行っています。ベルマークは日頃から交流させて頂いている南町小学校へお持ちし、子どもたちに必要な備品等を購入する事が出来ます。使用済み切手は練馬区社会福祉協議会へお持ちし、広報紙の費用など地域福祉活動に役立てる事が出来るそうです。

皆様のご家庭にベルマークと使用済み切手がございましたら、是非たんぽぽへの寄付にご協力よろしくお願い致します。その際、お手数ではございますが周りを切り取りお持ち下さい。

地域交流課